様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６４５
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１２９０６

研究課題名（和文）寄生虫症と地域社会をめぐる医療社会史：20世紀前半の日本と植民地期の台湾

研究課題名（英文）A social history of medicine regarding parasitic diseases and local communities in the first half of the 20 century Japan and colonial Taiwan

研究代表者
井上　弘樹（Inoue, Hiroki）

東京医科大学・医学部・講師

研究者番号：４０８６８５２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀前半の日本と台湾における回虫症や日本住血吸虫症などの寄生虫症対策を、地域社会の視点から研究した。また、関連する資料を収集した。寄生虫症の流行は、人々の習慣、産業、環境とも関わっており、その対策には法律の制定だけは不十分で、人々の参加を促す仕組みが求められた。その点において、エンデミック（地方病、風土病）をめぐる歴史研究は、地域社会を議論する格好のテーマになる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　寄生虫症は地域社会を議論する上で格好のテーマになるため、本研究は地域社会を論じる医療社会史としてのモデルケースとなり、医療社会史研究の幅を広げることに寄与する。また、歴史研究者ではない方々との対話を積極的に行い、感染症をめぐるリスク・コミュニケーションのあり方など、歴史研究を現代社会の課題に接続する視点を得た。
　関連する資料の収集・整理も行った。ただし、医療や感染症に関する歴史資料は、地域の公文書館や図書館に系統的に所蔵されているわけではない。資料を残すには場所や経費や人材などの課題がある。また、資料を残す・残さないという議論は、歴史研究者の論理と倫理が問われることにもなる。

研究成果の概要（英文）：This study examined a history of parasitic diseases control, such as ascariasis and schistosomiasis japonica, in the first half of the 20th century Japan and colonial Taiwan from the perspective of local communities. I collected relevant historical materials, too. The prevalence of parasitic diseases was related to customs, industry, and environment in local societies. So, the effective measures required not only the enactment of a law, but also the active participation of residents. A history of endemic diseases is also a history of the community.

研究分野：医療社会史

キーワード：医療社会史　寄生虫症　回虫症　鉤虫症　日本住血吸虫症

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究は医療社会史である。1970 年代以降に欧米を中心に始まった医療社会史が、国民国家の構築性を鋭く問う視点を備えていたことは、ナショナル・ヒストリーの相対化を目指してきた近年の歴史学界において、医療社会史が重要な研究テーマの一つに成長した一因であった。一方で、従来の医療社会史は、政治的・経済的・社会的なインパクトが大きかった急性感染症や致死率の高い疾病を重視してきた。確かに、こうした疾病対策を通じて、国民国家が形成され、近代的な公衆衛生行政が整備されたため、医療社会史がこうした疾病に着目したことは妥当であった。しかし、こうした医療社会史に対して、実際に疾病対策を受けた側の人々の状況が見えてこないという課題が、しばしば指摘されてきた。つまり、これらの疾病は、国家が主導的な役割を果たさざるをえなかった疾病であったがゆえに、国民国家や植民地統治のあり方を議論することができたものの、一方で、国家や統治者の視点からの議論になる傾向があった。また、資料的な制約から、疾病対策を受けた側の状況を議論することが難しいという問題もあった。

これに対して、本研究は 20 世紀前半の日本と植民地期台湾における回虫症、鉤虫症、日本住血吸虫症などの寄生虫症（これらは地方病や風土病と呼ばれた）の流行と対策に注目して、地域社会のレベルでの研究を計画した。

２．研究の目的

これらの寄生虫症は、地方病や風土病と呼ばれたように、地域の自然環境や生活習慣（農業、食生活、排便など）と密接に関わる疾病であった。そして、20 世紀の日本や台湾で寄生虫症対策を実際に担ったのは、地域社会の人々であった。そこで、本研究は、両地域において、回虫症などの寄生虫症がなぜ蔓延して、対策がどのように成立・実施され、人々の生活にどう影響を与えたのかを、地域社会の視点から明らかにし、これにより、地域や国家を多層的に把握しようと試みた。また、関連する資料の収集も目指した。

３．研究の方法

文献資料をもとにした研究を実施した。

第 1 に、日本の寄生虫症対策を制度史の観点から分析した。具体的には、1931 年に成立した寄生虫病予防法の制定過程を明らかにした。法律制定過程を逐次解説していた雑誌記事や法律制定に関与した人物の手記などを分析した。

第 2 に、山梨県や広島県など地方の公文書館での調査、地域の図書館での行政刊行物の調査を中心に、地域の人々の寄生虫症対策への取り組みを分析した。

第 3 に、歴史学以外の学会での研究報告や、市民参加型のシンポジウムなどに積極的に参加して、研究成果の共有を図った。

第 4 に、久留米大学が所蔵している日本住血吸虫症をはじめとする寄生虫症関連の文献・資料の整理に携わり、山梨県で日本住血吸虫症の資料や体験談を収集する民間団体の活動にも参加した。

４．研究成果

(1) 寄生虫病予防法をめぐって。寄生虫病予防法は、内務省実験所での改良便所の研究成果を踏まえた、内務省自身の研究成果として位置づけることができる。立法に際しては、トラホーム予防法などが参考にされた。また、伝染病予防法や屎尿処理に関連する法律と相乗効果が期待された法律であり、治療よりも予防が中心となっていた。ただし、改良便所は思うように広がらず、寄生虫症の制圧のためには人々の生活習慣の変化や駆虫も必要だった。また、日本住血吸虫症の対策には環境改変も必要であった。しかし、寄生虫病予防法は、それらを促す仕組みが不十分であった。

他方、植民地期の台湾でも寄生虫病予防法の制定が必要であることは当時議論されていた。日本内地で同法が制定された 1931 年に、台湾でも一部の特例を設けて施行することが審議された。しかし、法律施行に伴う経費の捻出が困難という理由から実施されなかった。なお、COVID-19 流行により台湾での調査は十分に実施できなかったため、今後の課題である。

(2) 地域での寄生虫症対策。県市の公文書館には、その地域で誰がどのような対策に関与していたのか、その一端を伝える資料が残っている。例えば、広島県では、婦人会が駆虫薬の購入や改良便所の設置に参加していた。また、寄生虫症対策を担った民間団体が、学校や PTA に検便と駆虫を売り込む姿にも当時の状況が示されていよう。また、農繁期の栄養確保と疾病予防として、「農繁期合理化運動として一斉検便」と「一斉駆虫」を実施することが提唱されたように、寄生虫症対策を産業活動と結び付けることもあった。

(3) 寄生虫学や公衆衛生学の学会で研究成果を報告したり、市民参加型イベントを開催した。

歴史学に関しては非専門家の方々との対話からは、感染症対策におけるリスク・コミュニケーションを歴史学としてどう議論できるかなど、歴史研究を異分野・現代社会の課題と接続するための新たな視点を得ることができた。また、かつて流行地に住んでいた市民から当時の様子や地方病に関する現在の問題関心などを教えていただく機会にもなった。

(4) 資料の収集。保健所などの資料は系統的に保存・公開されているわけではなく、断片的な状況の把握にとどまることもあった。こうした資料の状況を知れたこともひとつの成果である。久留米大学医学部には日本住血吸虫症をはじめとする寄生虫症対策に関する歴史的文献が多く残っている。共同研究者とともに、貴重な資料を撮影したり、目録化する作業を進めている。

このほか、日本住血吸虫症の流行地であった山梨県で、同症の流行・対策・制圧に関する歴史資料を郷土教育に活用しようとする民間の研究会の設立総会に参加した。医学・歴史学の専門家のみならず、小学校教員、会社員、メディア関係者、郷土史を研究している方など幅広い参加者がおり、私も歴史研究者の立場から資料の収集や保全や活用に協力することとなった。その活動の一環として、日本住血吸虫症に感染した経験のある方々にお話を伺った際には、自身や親族が感染したことのあるほかの参加者を交えて活発な議論が行われた。私は熱気を帯びた参加者の語りの連鎖に、「地方病について皆と語りたい／聴きたい」という参加者の熱意を感じた。そして、そのこと自体が地方病を経験してきた人々の存在と、他方でその記憶や記録が失われつつある地域のありようを示しているようにも思えた。一方、こうした記憶を忘れてしまいたいという立場の住民もおられるとのことである。そうした方々の存在を含め、歴史研究は山梨県の地方病の歴史と現在をどう論じることができるのかが問われている。また、人々の語りの中に、当時の子供たちの生活の様子がうかがえた。地方病が流行していた時代の子供の暮らしを調査することは、歴史研究としてもおもしろいだろう。

(5) 今後の展望。第 1 に、研究の対象時期を 20 世紀後半に延ばす。この時期にこれらの寄生虫症の制圧が大きく進展したのであり、その時期の人々の暮らしから寄生虫症対策を論じることが必要である。また、これは台湾に関しては脱植民地化を議論することにもなる。第 2 に、大日本帝国が統治した朝鮮や南洋群島などの地域や、同様に寄生虫症が蔓延していた中国や東南アジアなどの諸地域との比較史研究や、他の研究者との共同研究に展開することができる。第 3 に、資料収集に関連することとして、歴史研究者が資料を収集する際の論理と倫理を再考する必要がある。感染症の流行や感染を経験した方々の中には、その記録や記憶を残す行為を受け入れにくく感じておられる場合がある。そうした方々に対して、歴史研究者がどのような論理と倫理をもって応じるべきなのか、大きな課題として残る。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 INOUE Hiroki	４．巻 80
２．論文標題 Accumulating Local Medical Knowledge through Medical Missionary Work and Medical Reports: Wallace Taylor and Parasitology in Late 19th-Century Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	６．最初と最後の頁 61～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24739/00007743	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Iijima Wataru、Inoue Hiroki、Ichikawa Tomoo	４．巻 49(9)
２．論文標題 Introducing activities of the Archives of Infectious Diseases History (AIDH) project: Historical epidemiology	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Tropical Medicine and Health	６．最初と最後の頁 1，10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s41182-020-00296-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 飯島渉、斎藤修、脇村孝平、井上弘樹、齋藤愛	４．巻 53
２．論文標題 専門家座談会記録　新型コロナウイルスが与えた影響　日本人研究者座談会	５．発行年 2021年
３．雑誌名 史友	６．最初と最後の頁 22，65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 井上弘樹
２．発表標題 Lymphatic filariasis control in daily lives: residents in Misaki town, Ehime Prefecture during 1950s-1960s
３．学会等名 第91回日本寄生虫学会大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 INOUE Hiroki
２．発表標題 Making multi-layered connections between local and international medical knowledge: Wallace Taylor and an endemic disease in Japan
３．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 井上弘樹
２．発表標題 腸管寄生虫症対策と1960年代の沖縄：日本寄生虫予防会との関わりから
３．学会等名 琉球沖縄歴史学会2021年度シンポジウム
４．発表年 2021年

１．発表者名 市川智生、井上弘樹
２．発表標題 寄生虫症対策をめぐる歴史学：20世紀後半の日本と韓国
３．学会等名 第21回日韓・韓日歴史家会議「伝染病と歴史」（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 井上弘樹
２．発表標題 「僻地」住民の疾病・生活・健康：愛媛県三崎町におけるフィラリア症対策を事例に
３．学会等名 第39回日本医学哲学・倫理学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 井上弘樹
２．発表標題 寄生虫病予防法の成立、特徴、及びその歴史的位置づけ
３．学会等名 Asian Society for Social History of Medicine
４．発表年 2023年

１．発表者名 井上弘樹
２．発表標題 みんなで歴史を叙述する！？：山梨県の日本住血吸虫症／沖縄県のCOVID-19
３．学会等名 沖縄で健康と病の歴史を考える
４．発表年 2024年

〔図書〕　計4件

１．著者名 日本医史学会（編）、井上弘樹	４．発行年 2022年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 836
３．書名 医学史事典	

１．著者名 福士由紀、市川智生、アレクサンダーＲベイ、金穎穂、趙菁、戸部健、ハイン・マレー、星野高徳、平体由美、飯島渉、井上弘樹	４．発行年 2022年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 296
３．書名 暮らしのなかの健康と疾病	

１．著者名 日韓歴史家会議組織委員会・国際歴史学委員会日本国内委員会	４．発行年 2022年
２．出版社 日韓文化交流基金	５．総ページ数 198
３．書名 伝染病と歴史：第21回日韓歴史家会議報告書	

１．著者名 飯島渉、磯谷正行、井上弘樹、古澤美穂（編）	４．発行年 2024年
２．出版社 清水書院	５．総ページ数 -
３．書名 感染症でまなぶ日本と世界の歴史：医学・歴史学とつむぐ歴史総合	

〔産業財産権〕

〔その他〕

感染症アーカイブズ（https://aidh.jp/）

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関